

# ジャーナリスト

日本ジャーナリスト会議 (JCJ)  
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-8 松村ビル4F  
電話 03-3291-6475 FAX 03-3291-6478  
メールアドレス: jcj@tky.3web.ne.jp http://www.jcj.gr.jp  
年間購読料 3,000円(送料込み) 振替・00190-2-76501



THE JOURNALIST

2013.5.25

## 4・28歴史の偽造を許さない

### 「主権回復の日」告発集会

#### 米軍居残り特権維持 当時の大手紙、沖縄に触れず

「4・28は『主権回復の日』か!? その偽りを告発する集会」が文京シビックセンターのシルバードホールで当日午後1時

30分から開かれた。子どもと教科書全国ネットワークや日本ジャーナリスト会議などが実行委員会をつくり開催。



講演する山田朗・明治大学教授

で違つ。30分から開かれた。子どもと教科書全国ネットワークや日本ジャーナリスト会議などが実行委員会をつくり開催。

まず明治大学の山田朗教授が「日本近現代史」が『主権回復の日』の虚構性と題して講演を行った。サンフランシスコ講和条約が発効した4月28日は、本来、占領が終了し、戦争の後始末にメドがつき、国家主権が回復されるはずだったが、実態はまるもつひとつ、戦争の後始末にメドがついたのか、こちらもまともとみられ、沖繩、奄美、小笠原は米軍が、千島は旧ソ連軍が占領を継続した。日本本土では米軍以外の占領軍は撤収したが、米軍はそのまま居残り、在日米軍として残った。この在日米軍は講和条約とセツトで締結した旧安保条約に基づき、国内内乱時に出動できた。さらに52年2月に調印された日米行政協定(現日米地位協定)により占領軍の特権のほとんどは維持された。事実上、占領状態は継続されたわけ、それを『主権回復の日』として祝うのは無神経です(山田教授)

「講和条約が不完全なため領土問題は棚上げ、日本人自らによる戦争責任の追及はされず、旧日本軍による植民地・占領地での被害者や国内民間人に対する補償も未済です。そして国際社会での信頼回復の証である戦争放棄を定めた憲法9条に立脚した外交政策の展開も不完全。4月28日はむしろ戦争の後始末が不十分であることを考え直す日と改めるべきです(山田教授)」

### 知花昌一さん迎え 福岡でも反対集会



4・28は「第5の琉球処分」と語る知花昌一さん

でも4・28は「主権回復の日」とは言えないのである。つまり安倍政権は国民をだましているわけだ。

「その日の大新聞の紙面に沖繩は一言も出ていません。一方、沖繩の新聞は、たとえば琉球新報が

「琉球住民にいかなる意味をもつのか全く未知数」と社説に書いている。『主権回復の日』の偽りを告発するいいチャンス」と訴えた。

と、教科書ネットの儀文さんの報告もあった。集会参加者は会場の定員を50人も上回る約250人。歴史の偽造に抗議する声が会場内に響きわたった。

橋詰雅博

「沖繩に連帯し『4・28主権回復の日』に反対する福岡集会」が開かれたのは同市中央区天神の須崎公園。集会には沖繩

県在住の反戦地主で元読谷村議会議員の知花昌一さんが招かれた。反対集会は沖繩県以外では、1952年のサン

フランシスコ講和条約が発効して沖繩とともに「政府によって切り捨てられた」鹿児島県奄美群島と福岡市の2力所だけだった。

「沖繩大会」からの連帯メッセージが紹介された。浄土真宗の僧侶でもある知花さんは法衣姿で登壇。沖繩県民との連帯集会が開かれたことに謝意を表した後、「沖繩には現在も主権がない。4月28日は、1874年の『琉球処分』以来、沖繩戦で沖繩県民が見捨てられた悲惨な事態に次ぐ第3の琉球処分の日です。さらに、県民が望んだ形にならなかつた沖繩返還が第4の処分。そして、今また、沖繩全県挙げて反対しているオスプレイ配備の強行など、政府によって沖繩県の意向がこ

### 橋下市長の「慰安婦」発言

#### 歴史、人権への無理解を露呈

橋下徹大阪市長の、慰安婦制度は必要だったなどの発言に対し、批判が広がっている。

この発言に対し日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワークをはじめ、「戦争と女性への暴力」リサーチ・アクションセンター(パウラック)、アジア女性資料センター、女たちの戦争と平和資料

館など多くの市民団体が抗議、謝罪・撤回を要求した。17日は大阪府庁への抗議行動が行われた。

「慰安婦」制度の強制性を否認する橋下発言の論旨は掲示板、ブログなどででは珍しくない。「慰安婦たちの主張がなぜ裁判では認められないのか」というコメントがいくつまでたつても出てく

る。「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されているが、国家無答責の法律論と時効が壁だという事実関係が、広く日本社会の共有するところになっていない。

河野談話の見直しを示唆するなど、政治の右傾化は続いている。世論動向に敏感な橋下市長の発言には、これらも影響して

「一連の言動は橋下市長の個性にもよるが、それを生むのは日本社会の先の戦争に対する歴史認識の欠如であり、性差別への批判の弱さだろう。安倍首相が村山談話、

「終戦後の進駐軍も性産業を利用し」などの発言は、売買春を当然視するものと批判されている。

今回の橋下発言報道で、橋下批判は強かったが、その発言内容を検証し、批判するものはほとんどない。今後、出版メディアに本格的な論評が掲載され、橋下発言への具体的な反駁が期待される。しかし社会的影響力を考えれば、新聞やテレビの報道のありかたが問われる。

(福岡支部)

橋下徹市長は13日の記者会見で「精神的にも高ぶっている猛者集団」の休息のためには、「慰安婦制度は必要」と語ったうえ、ツイッターでも自説を述べ立てた。批判が起ると表面的な反省の

「慰安婦」問題・関西ネットワークをはじめ、「戦争と女性への暴力」リサーチ・アクションセンター(パウラック)、アジア女性資料センター、女たちの戦争と平和資料

館など多くの市民団体が抗議、謝罪・撤回を要求した。17日は大阪府庁への抗議行動が行われた。

「慰安婦」制度の強制性を否認する橋下発言の論旨は掲示板、ブログなどででは珍しくない。「慰安婦たちの主張がなぜ裁判では認められないのか」というコメントがいくつまでたつても出てく

る。「慰安婦」をめぐる訴訟で、原告側主張の事実関係は認定されているが、国家無答責の法律論と時効が壁だという事実関係が、広く日本社会の共有するところになっていない。

河野談話の見直しを示唆するなど、政治の右傾化は続いている。世論動向に敏感な橋下市長の発言には、これらも影響して

「一連の言動は橋下市長の個性にもよるが、それを生むのは日本社会の先の戦争に対する歴史認識の欠如であり、性差別への批判の弱さだろう。安倍首相が村山談話、

「終戦後の進駐軍も性産業を利用し」などの発言は、売買春を当然視するものと批判されている。

今回の橋下発言報道で、橋下批判は強かったが、その発言内容を検証し、批判するものはほとんどない。今後、出版メディアに本格的な論評が掲載され、橋下発言への具体的な反駁が期待される。しかし社会的影響力を考えれば、新聞やテレビの報道のありかたが問われる。

(機関紙部)



「首相 右に行き過ぎちゃってますけど……」  
江草晋二

### JCJ声明

## 憲法96条の改定に反対する 憲法の精神と原理を守り、活かそう

安倍晋三首相は、憲法96条の改定を公約とし、7月の参院選の争点にしたいと公言している。私たち日本ジャーナリスト会議は、立憲主義を否定し、9条改定、自衛隊の国防軍化、集団的自衛権行使を狙うこの改憲策動に反対する。

改憲規定を定めた日本国憲法第96条は、国会総議員の3分の2の賛成を決議の要件とし、その後国民投票の過半数の賛成をもって憲法改正ができることを定めている。

しかし、憲法改正の発議要件の緩和は、ときの政権の恣意によって、いつでも憲法の中身を簡単に変えやすくし、議会多

数派の横暴に道を開くことになる。憲法96条は、こうした権力の暴走に歯止めをかけ、国民が権力の横暴を縛る近代立憲主義の精神と原理を担保するものである。

「改憲」を立憲の目的としてきた自民党が昨年4月、決定・公表した「日本国憲法改正草案」は、天皇元首化、9条の平和

主義の否定のみならず、国民主権、基本的人権を制約する憲法の原理そのものを破壊する内容である。こうした背景のもとで改憲発議要件を先行して

私たちが、安倍内閣の96条改憲に反対し、第9条をはじめとする日本国憲法の精神とその原理を守り、強めるため、あらゆる場で取り組むことを改めて宣言する。

2013年5月13日  
日本ジャーナリスト会議

「侵略の定義は国際的に定まっていらない。歴史の判断は歴史家に」(安倍首相)「慰安婦は日本だけでなく、いろんな軍にあった。当時は必要だった」(橋下大阪市長)。

お馴染みの発言だがまだ「擁護派」がいる▼「歴史家にはいろんな意見がある。侵略ではない戦争もある」とか、「売春は形は違ってもある。軍に必要だったのは本当だ。今もセックス労働者」

## 集会 6月15日に、MICと共同で開催 「改憲」弄ぶ状況見据え 奥平氏とメディア現場で徹底説明

「改憲」を競い合い、弄ぶ政治とメディア状況を見据え、徹底検証するJ・C・J恒例6月集会はMIC(マスコミ文化情報労組会議)と共同して15日午後、東京・駿河台

の明治大学リビティタワーで行う。題して「アプナイ改憲騒動 あやうい改憲報道」――基調講演は憲法学者で表現の自由研究の権威、奥平康弘・東大名誉

教授・九条の会呼びかけ人。引き続き、同氏を交え、メディア現場とのパネル討論「毎日新聞・倉重篤郎専門編集委員(前論説委員長)」と北海道新

聞・住住嘉文編集委員、そしてコーディネーターは米倉外昭・新聞労連副委員長(琉球新報記者)が「憲法とメディア状況」と題して徹底討論する。安倍晋三首相が「96条

改憲を公約とし、7月参院選の争点にする」と表明して以降、にわかに「改憲問題」が政治とメディアの焦点となった。日本維新の会やみんなの党も「96条改憲」の推進を表明した。4月下旬には産経新聞が「国民の憲法要綱」を発表し、「天皇を元首」とする「独立自

存の道義国家」なる古色蒼然たる「改憲案」を打ち出した。しかし、5月3日「憲法記念日」の各紙社説を見る限り、「96条改憲先行」に明確な賛成論は、読売、産経など極めて少数。「変えていいこと、ならぬ事(朝日)」、「96条の改正に反対する」(毎日

「平和国家が問われている」(道新)、「沖縄にも3原則適用を 要件緩和先行は姑息だ」(琉球新報)――など反対論が圧倒的多数を占めた。改憲論で名高い小林節・慶大教授にも「96条先行は邪道、裏口入学だ」と批判され、世論調査も「96条改憲は少数」となった。自民党周辺にも「96条改憲先行を危ぶ

入済みエクセルシートも添付ファイルでJ・C・J事務局宛に送付してください。

高知新聞記者の高田昌幸さんが講義。続く29日午後には同所で「第一線記者が語る取材の現場」と題し、共同通信大阪社会部記者の真下周さん、京都新聞・社会報道部社会担当部長の大西祐資さんが講師を務める。

「慰安婦」バッシングを越えて―「河野談話」と日本の責任  
日時 6月23日(日) 14時～17時  
会場 早稲田奉仕園 スコットホール  
資料代 1000円  
基調講演 「河野談話」が明らかにした「軍閥」と「強制性」吉見義明(中央大学教授)

## 2013年度 J・C・J賞作品募集 市民・地域運動の記録も

2013年度J・C・J賞候補作品を募集している。例年多数の作品が寄せられるJ・C・J賞、今年も推薦委員会が活動を開始した。

J・C・J活動として重要なのは、会員・読者による推薦活動。他の地方ではなかなか目にするのでないローカル局の番組や地方紙・地域紙な

J・C・J8月集会以贈賞さる。地方在住の会員・読者のご協力をお願いしたい。

J・C・J賞募集作品は、新聞、放送、出版、写真作品のほか、市民運動や地域活動の記録など対象で、個人・グループを問わない。

J・C・J賞募集作品は、新聞、放送、出版、写真作品のほか、市民運動や地域活動の記録など対象で、個人・グループを問わない。

J・C・J賞募集作品は、新聞、放送、出版、写真作品のほか、市民運動や地域活動の記録など対象で、個人・グループを問わない。

J・C・J賞募集作品は、新聞、放送、出版、写真作品のほか、市民運動や地域活動の記録など対象で、個人・グループを問わない。

J・C・J賞募集作品は、新聞、放送、出版、写真作品のほか、市民運動や地域活動の記録など対象で、個人・グループを問わない。

J・C・J賞募集作品は、新聞、放送、出版、写真作品のほか、市民運動や地域活動の記録など対象で、個人・グループを問わない。

### ジャーナリスト講座 大阪で初の開催

6月22、29日 東京は9、23日

J・C・Jは若い世代から好評の「ジャーナリスト講座」を6月、初めて大阪で開く。6月22日午後1時半から、国労大阪会館(大阪市北区錦町)で「報道の文章の書き方・取材の仕方」をテーマに

取材の仕方」をテーマに

取材の仕方」をテーマに

取材の仕方」をテーマに

取材の仕方」をテーマに

### 視角

争は間違っていない、という正当化のための議論だ」との反論には「不適切かもしれないが、間違っただけを言っているという言い方、メディアの扱いに、落とし穴がある

阿部 裕

阿部 裕

# ネット選挙解禁 「べからず法」に風穴

## 選挙の自由実現、焦眉の課題

4月19日、インターネットを利用した選挙運動(ネット選挙)を解禁する、公職選挙法(公選法)改正が、全会一致で成立した。解禁は夏の参院選から適用される。

解禁は、メールを除くウェブ上の選挙運動と、メールによる選挙運動に大別されている。

ウェブ上の選挙運動(ツイッターやフェイスブック等のSNSを含む)は、市民を含めて解禁され、だれでも、特定の政党や候補者への投票を求める文書や映像・静止画像(選挙運動文書)を、自由に掲載することができる。

動は、政党・確認団体と候補者だけに解禁され、一定の要件を満たす受信者に対して、選挙運動文書を送信することができると。市民へのメール解禁は先送りされたが、附則で、参院選後「解禁について適切な措置が講ぜられるものとする」とされた。

「べからず法」に風穴 公選法によって自由であるべき選挙運動が規制され、国民の政治参加が大きく制約されてきた。選挙運動文書を頒布(不特定または多数への配布)することは、例外的に認められる「選挙文書」や「候補者ビラ」などを除いて全面的に禁止

され、法定外文書の頒布は犯罪とされている。これでは、支持する政党や候補者への投票を、市民が呼びかけることはまったくできない。

こうしたもので、ウェブ上に限るとはいえ、市民の文書活動の自由が実現したことは、きわめて重要な意味をもっている。選挙の自由を奪いとり、主権者国民を「観客」にしてきた「べからず選挙法」に、風穴があいたことを意味しているからである。

アクセスできる情報に隔絶した落差が生まれる。放置すれば、ネットを利用できない高齢者や社会的弱者の政治参加を、かえって疎外することにもなるだろう。

ウェブ上にあふれている選挙運動の映像や文書を印刷して掲示したり配ったりと犯罪。メールで「支援のお願い」が送信できる候補者が、同じ文書をファックスや郵送で送っても犯罪……こんな規制に合理性はまったくない。

諸外国に類例を見ない「べからず選挙法」が維持されてきたのは、解禁による「競争の激化」や「経費の拡大」「虚偽情報の氾濫」が口実だった。これらは、ネット選挙解禁をめぐっても指摘され

た懸念だった。ネット選挙が解禁されたいま、「ネット外の禁止」をそのまま続ける理由はどこにもない。ネット外を含めた選挙の自由の実現は、焦眉の課題である。

田中隆(自由法曹団)

## 放送フォーラム TPPの本質に迫る

### 日米のアジア経済支配の企て



聴衆を前に語る萩原伸次郎・横浜国大名誉教授

「TPPは米と組んでアジアでの経済支配を企てる日本の大企業の志向でもある」。放送を語る会の放送フォーラムで、講師の横浜国大名誉教授・萩原伸次郎氏はこう明快に指摘した。

今年3月、安倍首相はTPP交渉への参加を正式表明したが、事前交渉ですら重要な内容は国民には知らされず、また、交渉参加後発国として差別されるなどの問題点が露呈している。

日米のグローバル企業の利益を優先する戦略だと明確に定義つけた。その上で、安倍・オバマ会談の成果だと喧伝されているコメなど農産5品目、「聖域」について、TPPは全の関税の撤廃が最終目的で、遅かれ早かれ、「聖域」は消滅せざるを得ないと述べ、安易な期待を厳しく戒めた。

さらに米の医療資本が狙っている日本の国民皆保険への介入で、自由診療の拡大が進んで力ネ優先の医療がまかり通り、国民を守るための現在の健保制度が根底から崩壊する危険性があると警告。また、日本の経団連などがTPPに積極的なのは、米資本と組んで自

石井長世(放送を語る会)

## リレー時評



J.C.J代表委員 白垣詔男

憲法改悪に向けて自民、日本維新、みんななどの政党の動きが激しくなっている。そういう情勢もあって今年の憲法記念日には、「護憲派」「改憲派」が開いた集会に、これまでにない参加者を数えた。

大江健三郎さんから9人が「九条の会」を発足させた2004年6月10日から今年まで、全国では年々、「九条の会」

## 9月9日を「9条の日」にしよう

その意味では、「安倍ブラック政権」が「96条改憲」を言い出したことは、全国の「九条の会」の活性化につながっているとも言える。

私が事務局員として活動している「九条の会福岡県連絡会」でも、今年の「5・3憲法記念日

のついでには過去最多の500人が参加して大盛況だった。

「天皇制を廃止したいから私は改憲論者」と公言している九州大学大学院教授・出水薫さんの

だった。一方、福岡市内で、これも恒例の日本会議の「憲法集会」にも、これまでになく多数の550人が集い、こちらも盛況だったようだ。

「九条の会」

「九条の会全国交流集会」をみつけてアピルしたりして「9条の日」を国民すべてに認知してもらえよう訴えていきたい。国民の祝日になれば、こんな素晴らしいことはない。

運動は楽しく、目標に向かって進むことで多くの力を集める。「世界の宝・日本国憲法」の良さを広め、憲法の改悪をさせないために、参院選をにらんで行動を加速する決意を固めている。

### マウスの社会探訪

#### ソーシャルレンディングに社会性を

@SNSはネットを通じての個人同士の関係構築であるが、ソーシャルレンディングはネットを通しての個人間の金銭貸借である。P2P金融とも呼ばれている。ネットワークを広げるために運営会社がセンターとなり、貸し手、借り手を募集する。リスク分散のため複数の貸し手が融資する。運営会社は融資と資金の回収を行う。出資者の情報は一切伏せられる。

@この融資方法には利益の薄い社会事業や、個人の教育や生活向上に資するという社会的融資も意図していたようだ。結局貸し倒れのリスクを避けるため、企業への融資、それも担保付きとか保証付きとか安全性の高い融資条件が優先されるようになった。そのため、借り手は銀行より安く借りることができ、貸し手は金利が低い銀行預金より有利で、株式投資やFXのようなハイリスクを避けた、ほどほどの資産運用が期待できるメリットが強調されている。この融資方法の社会的役割をもっと見直してほしいものだ。

(MY)

#### J.C.J神奈川支部

#### 総会と講演会

神奈川支部では6月1日(土)に支部総会と講演会を、JR根岸線桜木町駅前横浜市健康福祉総合センター9階904号合センター9階904号会議室で開く。

午後1時30分から2時30分まで支部総会。続いて講演会を行う。講師 大野晃氏(スポーツジャーナリスト) 参加費 500円 問い合わせ 伊東090-2753-8012

# 大野晃の スゴイコラム

2020年夏季五輪の開催地を決める国際オリンピック委員会（IOC）の総会まで4カ月足らず。

招致委員会は「東京」の売り込みに懸命なスポーツ外交を展開しているはずなのに、聞えてくるのは国際的な孤立を深める動向ばかりだ。

## 孤立深める東京五輪招致

形勢不利と見たか、猪瀬都知事は米国メディアのインタビューに開催地を「イスラム諸国はけんかばかり」と中傷したうえ、「インフラが整わず、ナチの戦争犯罪に敵し

否定する態度を示し、中国、韓国などアジア諸国や米国からも批判を浴びた。これも戦争放棄を宣言した憲法を変えようという動きを強めている。これは国際平和を指す五輪を開催する日本

の姿勢に、世界が疑いの目を向けるのは必然だ。さらには首相と同一歩調の橋下・維新の会代表は従軍慰安婦制度を容認する愚かさで、世界中から非難が高まりそぞだ。

五輪開催は国際政治と無関係ではあり得ないのが現実である。IOC総会で決定投票権を持つ100人のIOC委員の母国は欧州が42人で最多。アジアが23人、アメリカ17人、アフリカ12人、オセアニア6人である。しかも政府と密接な関係を持つ各国のオリンピック委員会代表や国際情勢に敏感な国際競技連盟代表の合計で48%を占める。個人や元選手代表も多くが母国政府や国民の影響を大きく受ける。

国際政治での孤立は、五輪の世界での孤立をも意味する。（スポーツジャーナリスト）

## 丸亀市 「誰が出てても同じ」意識根強く 合併後の市長・市議選に冷めた目

丸亀市は合併から8年である。三つの市町（丸亀市、飯山町、綾歌町）が合併した当初はそれぞれの市町選挙区があり、定数は34だった。4年前には全市1区になり、定数は30に減った。投票率は65・84%。4月14日投票の今回は定数が27となり投票率は56・55%に下がってしまった。いづれも市長選挙と同時選挙である。

私が関わったのは合併した二つの小さい町（飯山町、綾歌町）を地域とする候補者の選挙である。削る大激戦となった。ところが今回はそれぞれ3人しか立候補できなかった。地域合戦の要素が希薄になった。

有権者はどう反応したか。二つの旧町とも「3人が通ればいいね」という空気があつた。今ひとつわが候補への積極的反応がない。冷えているのだ。新人の元収入役、合併直後の市役所支所長には合併協議の責任者、旧市長らが力を入れて市民サービス切り下げの、この8年間には知らん顔の選挙戦を展開した。しかしその地元以外は冷めた目である。

わが候補は実績・政策文句なし、市民要求をよく聞き共に運動を進めて

いドイツはじめ欧州諸国の姿勢に、世界が疑いの目を向けるのは必然だ。さらには首相と同一歩調の橋下・維新の会代表は従軍慰安婦制度を容認する愚かさで、世界中から非難が高まりそぞだ。

五輪開催は国際政治と無関係ではあり得ないのが現実である。IOC総会で決定投票権を持つ100人のIOC委員の母国は欧州が42人で最多。アジアが23人、アメリカ17人、アフリカ12人、オセアニア6人である。しかも政府と密接な関係を持つ各国のオリンピック委員会代表や国際情勢に敏感な国際競技連盟代表の合計で48%を占める。個人や元選手代表も多くが母国政府や国民の影響を大きく受ける。

丸亀市は合併から8年である。三つの市町（丸亀市、飯山町、綾歌町）が合併した当初はそれぞれの市町選挙区があり、定数は34だった。4年前には全市1区になり、定数は30に減った。投票率は65・84%。4月14日投票の今回は定数が27となり投票率は56・55%に下がってしまった。いづれも市長選挙と同時選挙である。

私が関わったのは合併した二つの小さい町（飯山町、綾歌町）を地域とする候補者の選挙である。削る大激戦となった。ところが今回はそれぞれ3人しか立候補できなかった。地域合戦の要素が希薄になった。

有権者はどう反応したか。二つの旧町とも「3人が通ればいいね」という空気があつた。今ひとつわが候補への積極的反応がない。冷えているのだ。新人の元収入役、合併直後の市役所支所長には合併協議の責任者、旧市長らが力を入れて市民サービス切り下げの、この8年間には知らん顔の選挙戦を展開した。しかしその地元以外は冷めた目である。

わが候補は実績・政策文句なし、市民要求をよく聞き共に運動を進めて

いドイツはじめ欧州諸国の姿勢に、世界が疑いの目を向けるのは必然だ。さらには首相と同一歩調の橋下・維新の会代表は従軍慰安婦制度を容認する愚かさで、世界中から非難が高まりそぞだ。

五輪開催は国際政治と無関係ではあり得ないのが現実である。IOC総会で決定投票権を持つ100人のIOC委員の母国は欧州が42人で最多。アジアが23人、アメリカ17人、アフリカ12人、オセアニア6人である。しかも政府と密接な関係を持つ各国のオリンピック委員会代表や国際情勢に敏感な国際競技連盟代表の合計で48%を占める。個人や元選手代表も多くが母国政府や国民の影響を大きく受ける。



5月2日、梶市長に署名を手渡す丸亀市政を考える会の細谷国子さん

議会での発言も選挙の論戦も抜群、魅力たっぷり、共産党の女性候補である。二つのまちで今回なにが起こっているか。前回は候補者が6人、5人と立ってそれぞれ地元をもつてしのぎを

「1952年、サンフランシスコ講和条約の発効によって、敗戦国・日本が琉球列島を切り離して「独立」した4月28日を「主権回復の日」として、政府主催の式典を開催すると安倍政権が発表している。この日は、沖縄か

「主権回復の日」に怒りと抗議の渦がたつていんならん！  
1952年、サンフランシスコ講和条約の発効によって、敗戦国・日本が琉球列島を切り離して「独立」した4月28日を「主権回復の日」として、政府主催の式典を開催すると安倍政権が発表している。この日は、沖縄か

「主権回復の日」に怒りと抗議の渦  
大会の冒頭、「沖縄を、沖縄に返せ」のテーマ曲を参加者全員で合唱。開催された「4・28政府式典に抗議する『屈辱の日』沖縄大会」は、煮えたぎる怒りを大会シンボルカラーの緑や、悲しみの色の黒や紺で表した人

最大の拍手を浴びたのは、中部地区青年団協議会（沖縄島中部の10市町村の青年団で構成）金城起した。  
1972年5月15日、沖縄は日本に「復帰」したが、それは、「基地のない沖縄」の願いを踏みにじる新たな「屈辱」ではないか。4・28と5・15の意味が鋭く問われる中で、「琉球独立」の声も高まりつつある。  
浦島悦子

## 終の栖は酒処

大学の退職を機に、住み慣れた相模原市から右に恵まれた環境を活かして、鶴来町は白山信仰の総本宮、加賀一ノ宮白山比咩（しらやまひめ）神社の門前町、中世以来の伝統ある日本酒造りが今に息づいている。清酒の消費量はこの十年で半減するほどの落ち込みだが、鶴来の蔵元、

蔵元・菊姫のたたずまい  
蔵元の管理には、杜氏の手作業による精米・製麴を支援するハイテク技術が導入され、新タイプの杜氏・酒マイスターによって担われる。

蔵元の管理には、杜氏の手作業による精米・製麴を支援するハイテク技術が導入され、新タイプの杜氏・酒マイスターによって担われる。



蔵元・菊姫のたたずまい

## 不定点観測

私のフォーカス

# 広島支部、2013年度総会を開催

## 「違憲の政治こそ改めるべき」

河上暁弘 広島市立大平和研究所講師が講演

### 新代表幹事に難波健治氏選任

広島支部は4月27日、広島市中区の市男女共同参画推進センターで13年度総会を開いた。12年度の活動報告と決算・監査報告を承認し、13年度の活動方針を決定。役員改選で新しい代表幹事に難波健治氏、事務局長に沢田正氏を選任した。

13年度方針は、機関誌「広島ジャーナリスト」の発行や、「黒い雨と低線量被曝」のシンポジウムをはじめ講演会、学習会の開催などを通じて反核・脱原発、安保・基地問題などを広く市民と



河上暁弘氏講演の様子

③市民運動、在広マスコミ・文化関係者、労組との提携④会員拡大と親睦交流、広Jサロンの開催⑤支部財政の確立⑥支部に掲げた。総会後の特別講演は一般にも

公開し、会員と合わせ23人が参加。広島市立大平和研究所の河上暁弘講師が「平和憲法の原点と現点―壊憲政治の推進か憲法理念の実行か」と題し、安倍政権が参院選

## MICが緊急シンポジウム開く

### 「外国特派員が見る今の日本」

MIC主催の緊急シンポジウム「外国特派員が見る今の日本」が4月27日、文京区春日のアカデミーホールで開かれた。

パネリストは双葉新書の『本音の日本』を伝える。このシンポジウムは、先述のシンポジウム「外国特派員が見る今の日本」が4月27日、文京区春日のアカデミーホールで開かれた。



シンポジウムの様子

来日して日の浅い徐義東氏は、昨年取材した原発反対の吉祥寺デモを大新聞が1行も書かなかったことに驚いたという。日本のマスコミの最大の

「日本の記者は事実を大事にする」という指摘が新鮮だった。現役記者も含め「これからどうすれば」との会場からの質問に、フアクリー氏は、個の自立をあげ、「報道で社会を変えよう」と思わなければ新聞記者といえない」と語った。2000人が参加した。

## 瀬戸際外交から対話に転じた北朝鮮

3月から4月にかけて「ワシントン」を火の海にするなど、北朝鮮の好戦的プロパガンダは凄まじかった。しかも米偵察衛星は、グアム島まで届く中距離弾道ミサイル「ムスタン」が発射態勢に置かれたことを暴露した。昨年12月のミサイル実験、本年

2月の核実験と、世界を脅かしてきた金正恩(キム・ジョンウン)政権は、好戦ポーズをフル稼働した。しかし、これは北朝鮮の「瀬戸際外交作戦」であって、数々の好戦的言辞が「こけおとし」だったことが今やはっきりした。米韓偵察筋によると、問題の「ムスタン」も発射態勢を解除されたという。彼らは米日韓が展開した警戒態

たを連れ帰った。飯島氏はその経緯を知るといふ意思があるかどうかを見分ける試金石だ」とする論評で「わが人民の受けた被害は古来今東西例のないほど最悪だったとして(日本は)国家的犯罪を謝罪し、補償しなければならぬ」と強調した。これ

から手が出るほど欲しいと告白した訳だ。安倍首相は「拉致問題は自分の内閣で解決する」「核、ミサイル、拉致の三つを解決するために『圧力と対話』で臨む」と述べてきた。

飯島氏訪朝で『対話』が進むのかどうか。飯島氏は北朝鮮のナンバ12金永南氏らと会談して、全拉致被害者の帰国など全面解決を要求。北朝鮮側はこれを金正恩第1書記に報告して対応すると回答したという。

1970年、『審判』(神と人とのあいだ 第一部)として、A級戦犯の東京裁判を舞台化した。木下順二が、その第二部として、87年にB・C級戦犯をテーマに描いたのが本作である。初演以来26年ぶりの再演となる。

死刑宣告を受けたその上、漫才師を登場させることでもっと書き上げた、とかつて木下順二が話していたと聞く。

死刑になった上等兵は多少現地の言葉ができ、島の少年とも親しくしていた。ところが、舞台は敗戦直前の南洋諸島である。押し寄せる米軍の軍艦を前に、日本軍は「玉砕」を覚悟、島民をスパイと称してこごとく殺害しようとした。しかし裁判で全員を死刑にするわけにもゆかず、誰か一人を「戦犯」に仕立てなくてはならない。そこで、誰かを指差せといわれた島の少年が、意味もわからないまま、親しかった上等兵を指差した。

### 演劇回り舞台

才師(桜井明美)である。なぜ漫才師なのか、という点はいささか意表をつくが、話そのものがあまりにも出鱈目すぎて

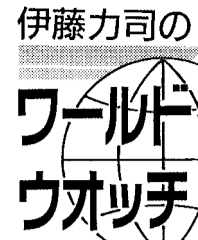
### 劇団民藝 『夏・南方のローマンス』

「どうしても取り返しのつかないものを、どうしても取り返すために」

(4月10〜22日) 紀伊國屋サザンシアターにて上演 安住邦男



演劇の舞台の様子



伊藤力司のワールドウォッチ

伊藤力司のワールドウォッチ

伊藤力司のワールドウォッチ

伊藤力司のワールドウォッチ

伊藤力司のワールドウォッチ

首相官邸で働いて初めてわかったこと

下村健一

# 元テレビキャスターが語る首相官邸の現場

再稼働反対で脱原発アモが盛り上がった昨年を思い出しつつ本書を読む。民主党が政権を担ったのは「おまかせ民主主義」からの脱却の一步、国民の政治参加を促す底流が

この課題は今も変わらな

異色の政府広報マン

3・11以降、被災地への情報発信や国民に発

原発ゼロを可能にする

「革新エネルギー

環境戦略」の決定過

程に関わり、原発維持派

の官僚らとの闘い方など

## 書評

### 本・BOOK・ほん

（価格は税別です）



記者・原真（共同通信）が、テレビはどのように生まれ、どのように変化し、なぜデジタル化したのか、これからどうなるのかを、関係者の証言で

世界の覇権に失敗した経緯、BSアナログからの方針転換にまつわるドラマ、世界の流れに乗り遅れまいと動いた行政、高画質以外のデジタルメモリが生かされない理由等が解明される。

第3章、多チャンネルの台頭、第4章ネットと競う未来は現在のテレビの状況を浮き彫りにした記述として読み応えがある。デジタル化のメリットである多チャンネル化が、番組の内容や視聴形態に変化をもたらしつつある。そしてネットとの競い合いの中で番組が変化しつつあることが浮き彫りにされている。

## テレビの履歴書 地デジ化とは何だったのか 原真

# 関係者への綿密な取材でたどる テレビ放送60年の歩み

今年、テレビが誕生して60年という節目だ。昨年3月末、東北4県のアナログテレビが終了し、テレビはすべてデジタル化した。本書は長い間テレビ放送を見続け、取材し続けてきた敏腕の新聞記者の証言を積み重ね

第1章の日本におけるテレビ黎明期の記述には、これまであまり知られていなかった事実も発掘、テレビ研究を先導した川原田正太郎のエピソードが楽しく読める。

第2章デジタルへの道では政府や業界がどのような思惑で動いたか、関係者の証言を積み重ね

4月28日、東京の「主権回復の日」式典で、安倍晋三首相らは「天皇陛下の支持にこたえ、我々も、没後にも「亀次郎に敬意を込める」というお

現場で住民と共に体を

## 民族の悲劇 沖縄県民の抵抗 瀬長亀次郎

瀬長亀次郎

# なぜ4・28を「屈辱の日」と呼ぶか、米軍の圧制と闘う沖縄県民の叫び



1952年のこの日に発効したサンフランシスコ講和条約は、平和憲法下の本土、それを支える軍事要塞・沖縄という構図を確定させた。

本書の初版は59年。暗黒の50年代に沖縄で何が起きたか、なぜ4・28を「屈辱の日」と呼ぶのか、事実を知らせるべく緊急再刊された。

著者の瀬長亀次郎は米軍の圧制と闘った不屈の政治家であり、ユーモアのあるおじさんだった。沖縄人民党委員長、後に共産党に合流して副委員長を務めたが、ファンは党の支持者にとどまらな

張っているから、描写は克明だ。田んぼを接収して基地にする米兵は、「餓死するだろう」と聞くと「一部であろう」と聞く耳持たず。農民は「一部でも死んでいなければ」と抗議。だが正論も田んぼも、米軍の銃剣とブルドーザーに踏みつけられてしまう。

著者は、多くの読者が「自由と民主主義を唱えるアメリカが、あのようになむごい、非道な仕打ちをやっているはずがない」と、お叱りの手紙を受け取った事実を明かしている。

42年がたった。今も沖縄の新聞社には、本土から「米軍は日本を守ってくれている。批判するのはなにごとか」という抗議が届いている。

（新日本出版社1200円）

阿部岳（沖縄タイムス）記者

## 短歌

### 現代の窓

評小石雅夫

高野 公彦（「コスモス」）

原発事故以後のいわき市寂しけれ空、空でなく海、海でなし 短歌研究5月号「無祀の鬼」

イタリア人エンリコ・フェルミ死にしかと原子炉という悪魔残りぬ 同

いわき市に一夜泊れば波音す幸多き海、わがはひの海 同

遠き陸前の海をおもふ。

遺体まだ上からぬ人は（無祀の鬼）になりて三陸の闇さまよふや 同

原発事故は、その後時間が経つにつれて、その深刻さはさまざまなたちをとってじわっと隈なく浸透し、どこまでも広がりを見せていきます。

物事への見方感じ方をも、それ以前と以後ではおそろしく異なったものにさせていきます。

一首目は、同じ街であり、その同じ空であり海であったものが、いまやそれまでとは同じ空とも海とも違った、目には見えない毒を含んだものに変容した親しさを失ってしまったものなのです。

二首目は、イタリア・ローマ出身の物理学者。放射性元素発見で1938年にノーベル賞を受賞し、そのままアメリカへ亡命。原爆開発のマンハッタン計画でも中心的役割を果たします。さらにデトロイト郊外のエンリコ・フェルミ原子力発電所内に高速増殖試験炉を建設。その5年後1966年10月5日に最初の炉心溶融事故が発生させました。それを「悪魔」と明確に表現しています。

三首目は、被災後のいわき市を訪れたとき宿で耳に届く波音です。本来、海は人びとに多くの幸を恵んでくれるはずのものです。その海がいまや放射能汚染水の流入で災いの海と化しています。四首目は、いまだに海にさらわれて行方も知れない二千七百人もの人びとの、弔われることのないままに、無念の鬼となつて迷う魂を思う。淡々と感傷を突き放した表現が、かえって読む者に刺さってきます。

（「新日本歌人」編集長）

## 前進座80年

中村梅之助

# 尊くも悲しく行かん前進座 劇団代表が綴る80年の歩み



劇人たちとともに、新作を上演するという人々たちによるものであった。

社会的な時代背景とともに、8歳で初舞台など、育っていく過程が、飾りのない叙述で展開されている。

「戦時下の前進座」では信州への疎開や、中学を中退して劇団に入座し、『元祿忠臣蔵』の地方巡演に出て修業に励む様子など興味深い。

そして「戦争が終わった」では、帝劇出演や自主製作映画などの活躍ぶりが楽しい。劇団経営の大改革などの問題も明らかにされている。そして、父・甕右衛門の死去に至る。

第二部では、前進座劇場が誕生した82年から2012年の閉鎖に至る30年間が、年度ごとにとまとめられている。

上演演目の選択、観客動員数など、責任のある所在が克明に綴られている。そして、名跡の襲名問題や中村梅雀の退座届なども論じられている。

（朝日新聞出版840円）

鈴木太郎（演劇ライター）

前進座の劇団代表であり、テレビ時代劇の『遠山の金さん』や『伝七捕物帳』でおなじみの人気俳優でもある著者が、誕生してから今日までの80年間の大河を俯瞰した貴重な一冊である。

歴史的な事実の一つひとつが、単なる回顧ではなく、人生をかたちづくる重みで裏打ちされている。第一部「前進座と私」、第二部「八〇年代以降の構成」。

第一部は、「私が生まれたのは、前進座が創立される一年前、東京・台東区池之端です」という書き出しで始まる。

前進座の創立そのものが、旧来の歌舞伎の上演だけでなく、革新的な新

# 映画の鏡

## 暗闇の先には、きつと光がある

### 『はじまりのみち』

#### 木下恵介監督の映画への熱い思い



と世間話になる。映画など見ないと思っていた若者が「あの『陸軍』の母親には涙が出た」と聞き、味方を得たと感動を覚える。病床の母が恵介を枕元に呼び、1枚の便箋を渡す。その中には「自分の希望で入った映画界、お前の映画を家族はどれだけ喜んだか知らない。また木下恵介の映画を観たい」と書いてあった。木下は当局への怒りて会社を辞めてきたが、母がこれほど自分の映画を待ち望んでくれたのかと、胸をつかれ、泣き伏すのだった。

これは木下恵介監督の生誕100年を記念した作品である。昭和19年に戦意高揚のために作られた映画『陸軍』で、田中絹代演ずる母親が息子を心配する姿が厭厭的だと

軍からいらまれ、次の製作を中止させられる。木下は松竹に辞表を提出、故郷の浜松へ向かう。戦局は悪化の一途をたどり、木下一家は疎開するが、病身の母をリアルに描き出した小川の土手で、恵介は便利屋の若者

を枕元に呼び、1枚の便箋を渡す。その中には「自分の希望で入った映画界、お前の映画を家族はどれだけ喜んだか知らない。また木下恵介の映画を観たい」と書いてあった。木下は当局への怒りて会社を辞めてきたが、母がこれほど自分の映画を待ち望んでくれたのかと、胸をつかれ、泣き伏すのだった。

映画は最後に木下恵介の15本の作品を紹介するが、阪妻、原節子、高峰秀子、佐田啓二など往年の大スターが生き生きとよみがえり、胸に迫るものがある。木下を演ずる加瀬亮が人間の弱さ、美しさを表現し、観る者を感動させる。

監督は『クレヨンしんちゃん』などアニメ作品を手掛けて来た原恵一(1959年生)で、初めての実写映画だが、誠実で、深みのある演出が光っている。(6月1日より全国公開) 今井潤

### 新聞

#### 見出しの力を再認識させられる

今年憲法記念日を前に、新聞はこれまで以上に憲法問題に力を入れた。特に、自民党を中心にした「96条改憲」についての記事が多かった。しかし、その後、憲法学者らの「96条改憲反対」の声が大きくなったのと、世論調査でも「96条改憲反対」が多かったのに加え、連立相手の公明党の反発が強かった

法問題社説を読んで、「96条の改正に反対する」とスバリ見出しでうたった毎日を感じた。見出しの力を再認識させられた。朝日社説は「96条改正に反対」を明確にしているものの「憲法を考へる／変えていいこと、ならぬこと」と、な

「憲法と『9条改正』を取り上げ、「武力行使偏重は危うい」との見出しで、結論は「今、9条をアファニスタンの2人が急いで改正する必要はない」とする。見出しには「改正賛成、軍隊を持

3面の山田孝男さんのコラム「風知草」が「最近の『96条』攻防録」と題して、この間の安倍・自民党の「96条改憲後退」の実相を書いて経緯がよく分かる。山田さんの立場は「中身(憲法の具体的な条文)の合意を棚上

下徹共同代表の問題発言が発覚。5月13日の記者会見で橋下氏は「沖縄の米軍兵士の性のエネルギーのはけ口に、日本の風俗営業を活用したらどうか」などと発言。ベアテさんが新憲法に託した願いとの余りのギャップに

## 月間マスコミ批評

7月の参院選を前に憲法96条改定の論議が急浮上。各テレビ局とも憲法記念日の前後に、連日憲法関連の報道・情報番組を組んだ。しかし、国民生活と憲法とのつながりを深く掘り下げたドキュメンタリーはわずかで、

「96条改憲」をめぐって、各テレビ局とも憲法記念日の前後に、連日憲法関連の報道・情報番組を組んだ。しかし、国民生活と憲法とのつながりを深く掘り下げたドキュメンタリーはわずかで、

「憲法と『9条改正』を取り上げ、「武力行使偏重は危うい」との見出しで、結論は「今、9条をアファニスタンの2人が急いで改正する必要はない」とする。見出しには「改正賛成、軍隊を持

米報道界で最高の栄誉とされる2013年度ピュリツァー賞が発表され、国際報道部門で温家宝前中国首相の親族による巨額蓄財を報じたNY

米報道界で最高の栄誉とされる2013年度ピュリツァー賞が発表され、国際報道部門で温家宝前中国首相の親族による巨額蓄財を報じたNY

### 放送

#### ベアテさんと橋下発言の落差

この中で5月4日のTBS「みのもんたのサリ満遍なく聞くに終わっ

戦前亡命ユタヤ人音楽家の長女として日本で暮らしたベアテさん。米留学を経て終戦の年にGHQ要員として来日、憲法草案作成に携わったベアテ・シロタ

権や女性の地位向上の必要性を骨子に盛り込む苦慮が描かれる。ベアテさんを駆り立てたのは、多感な少女時代に

このところ慰安婦問題での議論が少なくなっているが、橋下発言がこの問題への関心を改めて高める結果になったのは、

このところ慰安婦問題での議論が少なくなっているが、橋下発言がこの問題への関心を改めて高める結果になったのは、



マスミ気象台



プロフィール

清武 英利(きよたけ・ひでとし) 1950年10月12日、宮崎県生まれ。立命館大学経済学部卒業。75年読売新聞社入社。東京本社社会部時代、第一勧業銀行(現在のみずほ銀行)総会屋事件や山一証券破たんなどをスクープ。東京本社編集委員や編集局運動部長を経て04年読売巨人軍球団代表に就任。球団代表時代にプロ野球界に育成選手制度を取り入れた。ナベツネを告発したこと、11年11月に球団代表を解任される。

読売新聞グループのドン、ナベツネを真つ向から批判し、巨人軍球団代表を2011年11月に解任された清武英利(62)さんは、読売新聞社会部時代、敏腕記者として活躍した。その清武さんに、番犬の役割が薄れ、時の政府に吠えなくなった大新聞など活字メディア衰退の原因などについて語ってもらった。

——大手新聞を筆頭とした活字メディアの現状はどう見えますか。記者も紙面も怒らなくなっている。原発、TPP、消費税増税などの問題で異論なくことが進んでいて、政府側に押し切られている。それでいながら市井の小さな声も疑惑もあまり取り上げていない。昨年8月に山の上ホテルの元支配人が「解任は不当」として提訴した。社長のお金の使い方がおかしいと役員会で内部告発して解任され、ホテルを追われた。朝日が報じただけ。僕はその元支配人に「頑張ってください」

「記者よ、常識を疑え」 惨憺たる活字ジャーナリズムの衰退

# 「記者よ、常識を疑え」

## 惨憺たる活字ジャーナリズムの衰退

——大手新聞を筆頭とした活字メディアの現状をどう見えますか。記者も紙面も怒らなくなっている。原発、TPP、消費税増税などの問題で異論なくことが進んでいて、政府側に押し切られている。それでいながら市井の小さな声も疑惑もあまり取り上げていない。昨年8月に山の上ホテルの元支配人が「解任は不当」として提訴した。社長のお金の使い方がおかしいと役員会で内部告発して解任され、ホテルを追われた。朝日が報じただけ。僕はその元支配人に「頑張ってください」

をしたとき、学生に自分が勤める会社の不正を知ったらどうするかを尋ねた。「内部告発する」と答えたのは2割以下でした。「組織の一員として上司に相談する」「じっくり考える」が多かった。けしからんと思うのはごく一部、ほとんどは社会の落伍者になることを恐れる。負け組になりたくない。だから組織内のルールを守る。常識にしばられる。しかし、特ダネは常識を疑うことから生まれる。

——常識を疑うことで特ダネにつながった具体的なケースを話していただきたい。編集委員時代の02年ごろ、ある民間団体幹部から

「脱北者はすでに日本に入っている、外務省や入国管理局がこっそり入国させている」という話を聞いた。だが僕の取材に外務省も法務省も否定した。役所は否定しているし、裏も取りにくい、面倒な話になるなと思った。常識を疑いだれか応じてくれるだろうと、地べたをはうような取材をした。入管関係者などに何人も面談。とうとうある人が実は外務省幹部と協議し、入国を許可したと教えてくれた。その後にも取材を続け認める人が出てきた。入国した脱北者のほとんどは日本人妻でした。中国からの強制送還やタイ経由で入ってきた。亡命や難民でもないので、日本人と確認すると入国に問題はありません。書いた記事は「脱北日本人妻 極秘に帰国」と大見出しが付けられ、一面でした。この記事以降、脱北者が入国していることを否定する人はいない。今では多分、男性も含め百人はいる。こつた当局が認めないことを掘り下げる話はいっぱいあるはず。取材の過程で社内に支援してくれる人は少ない。嫉妬もあるからね。孤立するが、でも記者ならそこを突破してもらいたい。

40歳手前の中堅になると、出世が頭の中にちらつく。うまく行けばあそここのポジションまでいけそうと考えるといふ子になってしまふ。上司も部下の行動にブレーキをかける。しかし、記者を志したのなら出世欲を捨てて志に心を振り向ける。記者は記者のまま進む。広報部に転じたい、管理職になりたいという記者はすでに記者ではない。(来月号に続く)

橋下発言を徹底的にたたこう 橋下個人の問題にせず本質論議を

橋下発言は性別を超えた、人間の尊厳を傷つけたもの。あまりの無知、見識のなさに言葉もないが、これは橋下のような人間を市長と仰ぐ状況の中から生まれたものである。橋下を辞任させることも、「慰安婦を必要素とする」と言われている男性も自らの問題としてはっきりと抗議の声を上げて欲しい。

対し、「国際感覚に乏しかった。日本で認められていることが外国では……」「内容は撤回するつもりはない」と無反省だ。橋下に対する批判の中で、時代錯誤も甚だしいというのがあったが、これはちょっとひっかけか。慰安婦制度を肯定することに繋がらないかと懸念する。昔なら許せばいい、という余地を与えてはいけない。当時はそう

いう時代だったというのなら「女性国際戦犯法廷」はなんだったのか、ということになるのか。慰安婦問題は今でも「だってお金もらったの売春だろ」という認識が少なくないように感じるが、戦争というものが慰安婦を必要とする、という考え方が根本的に間違っていることを男性・女性双方から提起してもらいたいと思う。

### 神奈川支部が「出前講座」

#### 横須賀市で第一回開く

神奈川支部は独自のジャーナリズム講座を開くよう準備を進め、また県内の団体の要望に従って、その地元で開催する「出前講座」を企画し呼びかけている。その呼びかけに応えた21世紀の横須賀を考える懇談会(横須賀革新懇)主催の集いが、5月12日午後横須賀市で開かれた。

阿部裕前JCJ事務局長が最近のマスコミ報道のひどさについて、続いて清水雅彦支部事務局長が写真の見方、撮り方について講演した。阿部氏は、読売新聞の沖繩での販売部数が700部に過ぎないなど余り

知られていない情報を挙げながら、全国紙など大手マスコミの沖繩報道の偏りなどを説明した。財務省が消費税導入に向けてメディア企業幹部に「進講」しているなどの話は、うなずいて聞く参加者も多かった。

### 緊急ミニシンポ

JCJミニシンポ《もつと知りたい・そこが知りたい》第21回は「自民党憲法草案、ちゃんと知ろう」と題して5月29日に緊急開催する。この憲法草案はひどいものだという話は聞いていても、具体的にどういう内容をあまり知らない

「明日の自由を守る若手弁護士会・共同代表」 問い合わせ・申し込み 03-3291-647

「壊憲にどう対抗するか」 03-3208-5863

# 元巨人軍球団代表清武英利氏インタビュー

聞き手 橋詰雅博(フリーライター・元「日刊ゲンダイ」記者)

「憲法96条」の緩和が、目前の参院選の争点として急浮上。私たちはどう考え、何をなすべきか。日時 6月1日(土) 14時~16時

会場 東京外国語大学・研究講義棟1階・115教室(西武多摩川線「多磨」駅徒歩5分) 参加費 無料 講師 水島朝穂・早稲田大学教授 主催 東京外国語大・九条の会 問い合わせ 文流FAX 03-3208-5863